小学　５　年　単元名　器械運動　「マット運動」　成果と課題のまとめ

本時	【子どもの姿】 ○子どもたちは、自己やペアの課題に応じた技を選択し、練習方法や場を選択し、技に取り組むことができていた。また、ペアやグループで互いの技を見合いながら、良い所や改善点について積極的に話す姿が見られた。ビューティフルツインズを目指すという学習課題の下、どのような姿がビューティフルなのかという点について、スタートのタイミングや技のスピード、終わりのポーズを揃えるなどの点に着目しながら技を練習していた。	【教師の関わり・手だて】 ○子どもたちに技の出来栄えや技をしているときの感覚を聴き合うことの重要性とその価値について、単元のはじめや、授業中の声掛けによって意識づけることができた。また、どのような声掛けをしたらよいか、どのような練習場所を選択したらよいか等について、子どもたちに考える幅をもたせながら、要所でヒントとなる声掛けを行った。学習カードについては、技のポイントをすべて記載するのではなく、情報を少なめにし、子どもたちが技のポイントを見つけられる余地を残すものとした。	【自己評価】 ○子どもたちの関わりを生むという点では、毎時間積極的に聴き合いながら学習を進めている子どもの姿からはよい学習であったと感じた。しかしながら、基本的な技能であったりより発展的な技を行ったりするという点では大きく課題が残る学習となった。教師自身が基本的な技能面へのアンテナを高く持つこと肝要である。また、技能別のペアを構成したり、基本的な技でも複数回技を行ったりできる場を設定することでより子どもたちの学びが高まると感じた。
評価規準	**知識・技能** ①マット運動の行い方を知っている。 ②回転技や技巧系を安定して行うことができる。	**思考・判断・表現** ①自己の能力とペアの能力に適した課題を選び、その解決の仕方を選んでいる。 ②友達のよい動きや動きのポイントを見付け伝えあうことができる。	**主体的に学習に取り組む態度** ①運動に積極的に取り組んでいる。 ②約束を守り、助け合って運動している。 ③仲間の考えや取組を認めている。 ④場や器械・器具の安全に気を配っている。
成果	①マット運動の行い方については、毎時間準備運動後に行った体つくり運動を行ったり、技を練習したりする中で、行い方を理解しながら運動することできた。 ②学習カードに技の一覧をのせ、いつでも学習カードを見ながら練習をすることが出来るようにしたため、技の正しいやり方をイメージしながら行うことが出来ていた。	①ビューティフルツインズという課題の下、自分やペアの能力で美しく揃えて技をするためにはどの技を選択すればよいかについてペアと互いの技を見ながら相談し、技を選択することが出来ていた。 ②２つのペアから構成されるグループを作り、互いのペアの技を見合うという学習設定を行った。その結果子どもたちは、運動能力や技の選択に関わらず、積極的にグループ内で技を見合ったり、技の出来栄えについて聴き合ったりする姿が見られた。	①②どの子も積極的に運動に取り組むことができた。ペアでの学習やペア同士で技を見合う必要性を子どもたちが感じられていた。 ③仲間の取り組みを積極的に認め合う姿が毎時間見られ、子どもたちの生き生きと学ぶ姿が成果だった。 ④1 時数目に指導したマットの運び方や、マットの設置の仕方、器具の使い方について自分たちで管理し､安全に行うことができていた。
課題	①体つくり運動の中で、基本的な運動感覚については、身に付けることが出来るようになっていったが、着手や、着地の仕方などで指導が不十分な点が見られた。体つくり運動や、技をしている中で、より基本的な技能の部分に教師が関わって行ったり、子どもたちの目を育てていったりする必要があった。	①今回の課題の性質上、子どもたちは比較的簡易な技を選ぶ傾向が見られた。高い技能をもった子どもでも、ペアの能力に合わせ前転や開脚前転、開脚後転を選択していた。今回はペアを身長別にしたが、技能別のペアにすることで､この課題は解決する可能性があると感じた。	①運動に積極的に取り組んでいたものの、技を行う度に、ペアやグループで聴き合いが発生するため、技を行う回数が著しく少なかった。 ③ペアやグループ内での取り組みは積極的に認め合っていたものの、グループ外の子ども同士での関わりが少なくなってしまった。全体交流の場をタイミングを見て設定するべきだった。
備考	【共有資料】 ○単元構造図 ○学習課題提示用スライド （学習課題提示＋体作り運動） 	【ICT の活用】 ○クロームブックでの動画撮影 今回は ICT については、必ず使う物とはせずに、子どもから使いたいという声が上がった時に、使いたい子どもが使うようにした。 	【オススメ】 ○マット運動や鉄棒運動など、器械運動での子どもたちの関わりをもっと生みたい！という場合には、このビューティフルツインズという学習設定はオススメです。ただし、弱点も多々あり、①非常に簡易な技を行う傾向にある。②新しい技に取り組む時間がない。③運動量が著しく減少する。といった点が挙げられます。学習課題に向かいつつ、これら弱点を解決できるのであれば、子どもたちの生き生きとした姿の見られる学習になると感じました。

※１　「知・技」､「思・判・表」については、各授業後に学習カードの記載からも評価することで、教師の指導改善を図るとともに、評価の信頼性が高まるようにする。